

福岡周辺地域の重力ブーゲー異常とその特徴

Bouguer Gravity Anomalies in Fukuoka area, Kyushu, Japan

森尻 理恵[1], 広島 俊男[1], 駒澤 正夫[1], 牧野 雅彦[1], 村田 泰章[1], 名和 一成[1], 西島 潤[2], 茂木 透[3]

Rie Morijiri[1], Toshio Hiroshima[1], Masao Komazawa[2], Masahiko Makino[1], Yasuaki Murata[3], Kazunari Nawa[3], Jun Nishijima[4], Toru Mogi[5]

[1] 産総研, [2] 九大院・工・地球資源, [3] 北大・理・地震火山センター

[1] GSJ,AIST, [2] Geological Survey of Japan, [3] GSJ, AIST, [4] Earth Resources Eng., Kyushu Univ, [5] ISV, Hokkaido Univ.

産業技術総合研究所地質調査総合センター（旧・地質調査所）では、基盤構造の体系的な解明を図ることを目的として、重力調査の既存資料について保有機関の協力を得てその編集を行うとともに、未測定地域の重力測定を実施し、全国 20 万分の 1 重力基本図（1mgal コントアのブーゲー異常図）の系統的整備を行っている。

重力基本図「福岡」（森尻ほか、印刷中）は、九州のシリーズとして「大分」（広島ほか、2001）に引き続き出版される。福岡地域重力図の作成範囲は東経 130 度から 131 度 7.5 分、北緯 32 度 40 分から 34 度 0 分である。重力図作成には、この範囲の既存データのうち使用可能な 10,424 点と、測点密度が粗かった福岡市周辺地域において地質調査所が補足測定を行った 329 点、並びに九州大学が福岡の警固断層、水縄断層周辺などで行った高密度調査の 1,184 点を主として使用し、図画外側 5 分程度の範囲のものを参照した。新規に取得された測定点には、九州大学理学部地殻変動観測所の水準点ならびに九州大学工学部の基準点を重力基点とした閉塞方式が採用された。これらの新規データは別の機会にテーブルを公開する予定である。なお、既存データの大部分は「日本重力図 CD-ROM」（地質調査所編、2000）で既に公開されている。

今回出版される重力図からはいくつか興味深い構造境界が見られた。そのうちのひとつには福岡市中心部の低地と周辺の山地との境界が明瞭になったことがあげられる。今後はこれらのデータを元に地質構造を加味した福岡市周辺の基盤構造を考えていく予定である。

謝辞：20 万分の 1 重力基本図を作成するに当たり、データの使用を許可していただいた福岡県、国土地理院、新エネルギー・産業技術総合開発機構、地熱開発促進センター（現 財団法人新エネルギー財団）、京都大学、島根大学、名古屋大学各位に感謝いたします。